

第12回宮城県東日本大震災連絡会議 7月18日(金)15時～

参加団体：20世紀、東松島市、多賀城市、こころの相談室、メディアテーク、みやぎ観光復興支援センター、凸版印刷、東北の声、東北アジア研究センター、事務局

今回は報告事項が沢山ありますので、急遽、議題のメタデーターの話は9月になります。

<新しいメンバーの活動紹介>

東北アジア研究センター 高倉浩樹教授

宮城県における津波被災地の無形民俗文化財調査データベース“みやしんぶん”について

<http://mukeidb.cneas.tohoku.ac.jp/TopPage?0>

*民族誌情報の蓄積

東日本大震災に伴う被災した民俗文化財調査

宮城県地域文化遺産復興プロジェクト

「文化遺産を生かした観光振興・地域活性化事業」23,24年度

話者数：延145人、報告数85(2012年度時点)

*関連イベント・事業

2014年3月1日みやしんぶんデータベース公開(研究者などの利用を見込む)

*“みやしんぶんデータベース”とは

・東日本大震災に伴う被災した民俗文化財調査2011、2012年度報告集の各報告集内、見出し毎の段をデータ単位としてデータベース化

・フリーワード、調査地区、キーワード(項目)、時系列(震災前、後)による検索

・さらに文化財指定、話者性別、話者年齢層で絞り込み検索

・その他、データリストの作成とその詳細の印刷、原文報告書PDFへのリンク

・みちのく震録伝との連携、将来的には東京文化財研究所「無形文化遺産情報ネットワーク」と連携

・調査ノート(PDFに概要などがまとめられている)

・データベースの連携で広がる。

・希望の検索-「したい」、「したくない」、「難しい」などの感情も検索可能

現代社会における希望や意志、人々が感じている困難が具体的に串刺しででてくる仕組み。

単なる過去の状態の回復(復旧)だけではなく、望ましい未来に向けた意識がみえる。

*まとめ

- ・予備調査情報としての有効性
- ・地域情報としては十分な厚みがある
- ・市町村史と組み合わせて使う事で、多角的な呼び情報を提供
- ・現地調査を行う事で始めて生きてくる
- ・震災直後の映像としての記録性
- ・網羅的のようで網羅的ではない

無形文化財に特化した、絞り込んだデータベース（目的思考向け）

内容の使用のご相談などお問い合わせください。

Q&A

- ・なぜ、希望の声検索を考えたのか？

今後のさらに活用される為に、事例を出す1つのアイデアとして。

テキスト全文検索するのなら、感情をもヒットしてはどうなのか？名詞だけではなく。。。。

バイリンガルサイトも展開、海外の研究者への対応、日本研究のソースとして。

- ・各団体の利活用現状について

上映会など開催で対応、なかなか進んでないのが現状。

東北の声 イスラエード Japan IsraAID Support Program

<http://voicesoftohoku.org>

アーカイブプロジェクト、心のケア、ストーリーテラープロジェクトなどの活動

「東北の声」プロジェクト

東日本大震災を体験された方のお話を映像に残し、保存して行くプロジェクト

現在:200名の口述録収集 6つの地域でコミュニティーアーカイブを設立（地元図書館などに收藏、教育への活用、後世へ）

*3つのステージ

個人の記録-お話頂いた方に映像DVDをお渡しする

コミュニティの記録-貴重な地域の資料として図書館などで收藏

発信する記録-合意して頂いた方の口述録をサイトに反映、世界に発信

* プロジェクト手法の紹介

イスラエルのホロコースト・アーカイブ史的資料の考えに基づいたプロジェクト

イスラエルのオーラルヒストリー研究・退役軍人の心のケアの為に産まれた「ライフヒストリー・インタビュー」手法を利用 話し手の心のケアを配慮した手法

* 東北の声の心理療法的価値

- ・ インタビュー後の意見-記憶の整理、親友や家族に伝えたい、口述録が復興に役立つことへの喜び
- ・ 参加者は6割が男性

* 今後の展開

- ・ 地元コミュニティに根付く、持続的なプロジェクトを目指し、学生へのインタビューや撮影のトレーニング、コミュニティによる協力をはかる
- ・ 利用される記憶-インターネットで全世界へ、ビデオ以外の媒体で発信
- ・ 勉強会や学びの場を設ける

Q&A

翻訳は全てに？一部ついてないものもある。字幕が最優先ではないので、地元の方には日本語DVDを届ける。200人分はまだサイトには載せていない。

福島市は双葉のみ、宮城県に限定していない。

#####

【提案】 サマースクール

へブライ大学 アミアリブリッヒ博士（心理学）がIsraAIDのアドバイサーとして来日しワークショップを企画 →連絡会議との共催の提案

実践型ワークショップ：カメラ操作、インタビューなど

8月末（23～27内）に企画 参加者を募る(20人程) 多賀城市での開催を見込む

決定後メールリストで詳細を流します

柴山先生

WTC911メモリアルホールの報告より

(写真報告から)

メモリアルモニュメント、観光地、メモリアルホール、\$24入場料、ホール内中心にツインタワー、地下B4へ、当時のテキスト（新聞など）や写真がプロジェクションされている、擁壁や支柱の一部展示、行方不明者を探すビラなども展示、亡くなった2000人のオーラルヒストリー、時系列での解説、ストーリーが点在（テトリストなど）、最後、来場者からのメッセージ入力

来年3月14-18日開催の国連防災会議に向けてのイベント、シンポジウムでの紹介

(WTCメモリアルホール訪問の感想)

現物展示のインパクト重要性を再確認

オーラルヒストリーや当時のメディア媒体からの情報

プロジェクションマッピング手法、建造物やブティックなどそのままを残す(ホコリなどそのまま)。スケールが大きい

ミュージアム構想の行方：東日本大震災をどう表現するか、どのようなメッセージを残すか？

【予告】

*食と震災に関する展示 わすれん！と20世紀アーカイブとの企画

“3月12日はじまりのごはん”

メディアテーク7階にて来場者が各展示写真にキャプションを付ける。

*2015年1月11日震災シンポジウム開催予定

国内団体の紹介を中心に→3月の国連防災会議でも紹介

注意！国際会議開催中の宿確保はお早めに（関東圏から来仙の方々）

次回こそは Step3：メタデータのお話

9月19日（金）15時～ 7F

皆さん宜しくお願ひ致します